



上/全長2,087mの城山トンネルのうち、1061.5mを施工する。両側から掘り進め11月に貫通予定。  
 下/「働きながら子育てをするのは大変だと思いますが、新しいことにも前向きに取り組むので感心します。トンネル工事に従事する女性は少ないので、岡本にはその先駆者になってもらいたいと思っています」(右/小林総合所長)。  
 「設計変更業務は後手にまわる傾向があるのですが、岡本がしっかりと整理してくれるので安心です。この現場は様々な工種があり苦勞もあると思いますが、新しいことを吸収してもらいたいですね」(左/大藤所長)

輝け! けんせつ小町

# 現場監督

岡本真奈

株式会社竹中土木  
 中部横断城山トンネル(その2)作業所



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。



my Beginning 私が建設業界に入った理由  
 環境問題を最も身近で考える

これまで数々の現場で土壌の浄化を行ってきた今号の小町。現在は二児の母でありながら、その専門性を活かして山梨県のトンネル工事現場に従事している。仕事と子育てに奮戦しながらも、新しい知識習得のため日々勉強にも励んでいる。

## 「エコ」をきっかけに汚染土壌現場へ

「小さい頃からずっと理科が好きで、実験や観察が大好きでした。高校時代、環境問題を語るときにエコという言葉が使われ始め、それをきっかけに環境浄化の技術に興味を持ち、大学は農学部環境資源科学科へ進学しました」

大学を修了した岡本は、環境問題についてさらに見聞を広げるため大学院へと進む。

「土壌微生物を専門に扱う研究室で、地球温暖化に関するガスを放出したり分解する微生物の分析をしていました」

岡本は研究を通して、環境問題に対する取組みを仕事としてやってみたいと強く思った。しかし就職活動で悩みを抱える。

「就職サイトで『環境』をキーワードに調べてみると何百社も出てきて、これでは絞れないと感じ先輩に相談しました。環境問題に対して計画から関わりたくて、最初は行政やコンサルタントといった業界を考えていました」

業界研究を進めていくうち、建設業界では土壌汚染の浄化計画から施工まで行っていると知り、(株)竹中土木にエントリーシートを提出。その後、予想もしていない返信が岡本を驚かせた。

「人事部から、『社内で土壌汚染対策の専門家として活躍している女性社員の大西絢子さんに会って話を聞いてみませんか』とすぐに返事が届き、学校まで来てくださったんです」  
 建設業界の取組みを詳しく知り、そして会社の熱意や生き生きと働く女性社員の姿に感銘を受け、岡本は二〇一〇年、(株)竹中土木に入社した。

## 土木、環境分野を勉強する毎日

(株)竹中土木では教育制度の一環として、新入社員は前期と後期の半年間ずつで異なる部署に配属される。

「環境の仕事がしたいと漠然とした気持ちで入社したのですが、前期で本社の技術・生産本部後期はダイオキシンで汚染された土壌が堆積している川沿いの浄化工事現場に配属されました。本社では、トンネルや造成など様々な現場で発生する問題を解決する部署で分からないことだらけ。先輩に聞いたり自ら調べる毎日でした」  
 土木の知識がどんどん増えていくことや、自分の手で浄化作業を行い、変化していく現場を目の当たりにすることで、学生時代には味わえない達成感が込み上げてきたと岡本は話す。  
 「二年目に入ると技術設計部へ配属となり、

my style

休日は子どもたちと遊んで過ごしています。上の子が遊び盛りでお出かけしないと怒るので、児童館で体を元気に動かしたり、ショッピングモールでお買い物をしたりします。満足するまでとことん遊びますね。平日は、出社前に子どもを保育園に預けて仕事が終わると急いでお迎えに行き、家に着いたらすぐにご飯の支度をします。バタバタですが毎日楽しいです。



お子さんのお気に入りの玩具。



右/工事で発生した濁水の処理をプラントで行い、そこから出る水質のモニタリングを行う。  
上/全体の進捗を把握して、発注、工程の段取りを考えるので机に向かう時間も長くなる。  
下/工事事務所の皆さん。岡本の右隣が小林総合所長、左隣が大藤所長。



# my Growing

私が建設業界で学んだこと

## 3つの得意分野が自分の道を開く

汚染土壌の調査や浄化工事を行いました。環境学部を卒業したとはいえ、環境関連の法律については全くの素人。一から勉強する毎日でした。入社二年目になると、社内で汚染土壌対策の計画から施工管理までを一括して行う土壌環境グループが新設され、岡本もその部署へ異動となる。学生時代からの憧れであった大西が所属する部署でもあった。

### 一日が二度くるような働き方

土壌環境グループで働き始めて一年半で山梨県に引越しをする。

「夫の転勤で甲府市に引越したのですが、家からぎりぎり通える日野自動車土木作業所に所属することで、会社が土壌環境グループの兼務を認めてくれたんです」

土壌環境グループの二人一組で仕事を行うペア制度のおかげもあり、今までに大小含め約三〇現場の土壌浄化を担当できた岡本は話す。

「ペアを組んでいた課長に頼まれた土壌環境グループの仕事をこなし、週に一回東京で打ち合わせをしました。急な対応は課長にしていたのですが、現場に常駐ではなく計画段階と施工中、施工後の出来形確認に数回行くかたちだったので大きな負担にはなりませんでした。私ひとりではないというのは心強かったです」

岡本は二〇一四年に育児休暇を取得し、その後復帰。二〇一六年、二度目の育児休暇を取得

後、山梨県のトンネル工事現場に配属となった。現場で働きながら母として子育てにも奮闘する。

「仕事と子育てはどちらもおろそかにできませんね。まだ子どもが小さいので、時短勤務制度を使って九時から一六時四十五分までの勤務です。家に帰ったら仕事のことを考える暇がなく一日が二回来るような感覚なので、職場と家では頭を切り替えています。大西さんが育児休暇を取りながら仕事に復帰しており、身近にお手本のような存在がいたこともありがたかったです」

会社の制度や周囲の理解・協力だけでなく、相談相手や岡本自身の働き続けたいという強い意志があつてこそできる働き方だ。

### 三つの得意分野を持つ

岡本は現在配属されているトンネル工事現場で、主に設計変更や濁水処理のプラント管理、水質のモニタリングを行っている。

「時短勤務のため、朝礼や夕方の締めにも出られません。現場の仕事はそれだけではありません。作業所で行う事務作業もたくさんあるので、そういった部分を私がやってみんなをフォローしたいです。分からないことはすぐに調べたり、まわりに聞いたりするようにしています。聞くことは恥ずかしいことではないです。一人で悩むより仕事が早く進みますからね」

上司から言われた一言を胸に抱きながら、この現場で新しく始めたことがある。



この現場で新たに取り組み始めたトンネル入り口の坑門工事。鉄筋組立が完了し出来形確認を行っている。

## profile



おかもと・まな ●1985(昭和60)年、埼玉県生まれ。大学院では物質循環環境科学を専攻し、2010(平成22)年、(株)竹中土木に入社。2012(平成24)年1月より土壌環境グループに配属。翌年6月から、日野自動車土木作業所との兼務をしながら数々の汚染土壌現場の浄化作業を行う。2度の育児休暇を取得し、今年より中部横断城山トンネル(その2)工事へと異動し今に至る。

「汚染土壌の仕事を一から教えてくれた上司に、『これはできると自信を持って言える三分野を持ちなさい』と言われました。この方は汚染土壌、水処理、海外工事の三つのスペシャリストで、今は海外でも活躍しています。一つのことをダメでも他の二つが自分を助けてくれるから、偏らないで色々やってみるといふことだったので、私には汚染土壌以外に何があるだろうか。今はトンネルの現場なのでそのスペシャリストになれるかもしれない。ここで二つ目の分野を見つけようと考えています」

今後は汚染土壌以外の現場の仕事も覚えたいという言葉は力強く、迷いや不安は感じられない。限られた時間のなかで、常に先のことを考え、新たな知識の習得にも励むその貪欲な姿勢には驚かされた。三つの得意分野を持ち、岡本ならではの働き方でさらに活躍していくだろう。

my **Growing** 私が建設業界で学んだこと